opusdei.org

黙想:聖母の汚れな き心

黙想のテーマ:「聖霊のすまい、マリア」「心の清い人は幸い」「心で全てを熟慮すること」

聖霊のすまい、マリア

心の清い人は幸い

心で全てを熟慮すること

「わたしは主によって喜び楽しみ、 わたしの魂はわたしの神にあって喜 び躍る。主は救いの衣をわたしに着せ」(イザヤ61·10)られた。教会は、聖書のこの言葉をマリアの人物像を表すのに使います。広大でで、とてエスのみ心を考察した後で、とでしましょう。主は、「聖霊のふことにもしますまい」 でを準備しようと、聖マリアのみ心を限りない恩恵で満たし、清さそのものになさいました。

す。「わたしの魂は主をあがめ、わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。 (\cdots) 今から後、いつの世の人も、わたしを幸いな者と言うでしょう」(ルカ $1\cdot$ 46-48)。

マリアの心における恩恵の働きを知 り感嘆した幾世代にもわたる人々の 歌声に、私たちも一致することがで きます。それと同時に、私たちの御 母のこの幸せを共有したいという望 みが湧いてくるでしょう。神が私た ちの人生に働きかけられたことを思 い出すと、私たちも賛歌を歌いたく なるでしょう。というのも、神は、 その栄光と共に私たちの心に入り込 むことをお望みになったのです。教 会が御父に捧げる集会祈願の祈りに 一致することができます。「聖母の 取次を通して、御身の栄光の尊厳あ る神殿になることができるようにし てください | 1310

「心の清い人々は、幸いである、そ の人たちは神を見る | (マタイ5・ 8)。マリアは、人となられた神 を、か弱い幼児の時から見る賜を受 けました。その清いまなざしは、イ エスのまなざしを読み取り、御子の 気持ちや意向を察知することができ ました。例えばカナでは、御子の否 定的な返事にも関わらず、マリア は、メシアとしての顕現を前倒しし てくれることを知っているのです。 また十字架上でも、御子のまなざし に、そばにいてくれるようにと言 う、穏やかな頼みを見て取ります。

聖マリアは、その優しいまなざしに よって、生活における大小さま見れる といれが、神の御手を見れが、それできました。これが、冷されが、 ことができました。心の清される は、本直な見方をさせ、物事にして は、外込むことができるように に入り込むことができるように くれます。すべてのことの が、神であることを知っているから です。逆に、率直な見方を欠き、神の賜を受け入れないと、外見や表面 的なことに欺かれるままになってし まいます。

純粋な心は、人々を理解し、格付け をしたりレッテルを貼ったりしない よう努め、誠実に人々を愛すること を容易にします。純粋さは、人々を 遠ざけないばかりか全くその逆で す。すべての人は、神の子どもとし ての偉大な尊厳を有していることを 認め、この認識に一致した接し方を します。何よりも、傍らの人をもっ と良く愛するように仕向けます。イ エスの御母のような愛があるなら ば、どんな時でも、非常に不安定な 状況においてさえも、愛情を示す手 立てを見つけることができます。 「マリアは、粗末な布と溢れるほど の優しさをもって、動物の岩屋をイ エスの家へと変えることができる方 ですしる。

「たしかに神は御母を賞賛されましたが、地上における御生活中らいまったの明暗や仕事の疲労、苦確からを変えれる。神殿で少年、そのからなった。神殿で少に、のか分のもエスを端がずといるでは、ないのではいるのではいるのではいるのではない。当れたりのではない。とをいうにはないがした。ではないでした。

イエスの思いを全て知り尽くすことはできません。聖母含め、主に従う人の人生においては、神が私たちを驚かせる時があります。それは神の計画が、私たちの計画よりも広範で偉大なものであることを思い出すでです。聖マリアが同様の経験をしたことは慰めになります。聖書は、た

めらうことなく、イエスの返事がマリアとヨセフには理解できなかったと言った後で、「母はこれらのことを全て心に納めていた」(ルカ2・51)と、付け加えています。

あらゆることの背後に神の御手を認 めることは、神の一つひとつの計画 の全容を直ちに理解することを意味 しているのではありません。祈りの 牛活においても暗闇があります。そ の時は主を信頼するよう求められて いるのです。成熟した信仰は試練の 時を照らします。マリアは、聖霊が 心に住まわれていることを知ってい ました。心は、愛するために〈指定 された〉場であり、時には苦しみと 共に、また理解するのに時間が必要 な状況においても、神が共にいてく ださるところです。私たちも、聖母 の模範と助けによって、同じように することができます。

- [1] ローマミサ典書、聖母のみ心の記念日の集会祈願。
- [2] 聖エフレム(Sermo 3 de diversis: Opera omnia, III syr. et lat.Romæ 1743, 607)。
- [3] ローマミサ典書、聖母のみ心の記念日の集会祈願。
- [4] フランシスコ「福音の喜び」286番。
- [<u>5]</u> 聖ホセマリア『知識の香』172 番。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-seibo-no-mikokoro/(2025/12/15)